

第3回下川町総合計画審議会(産業経済部会)会議録

日 時 令和4年9月22日(木)

午後6時40分～8時10分

場 所 役場庁舎4階中会議室

《農林課》

出席者(委員): 三津橋弘茂部会長、田中由紀子副部会長、成田菜穂子委員、高松峰成委員

出席者(町) : 古屋宏彦課長、又村寛樹主幹、高原義輝主幹、今裕一主査、斎藤丈寛主査、
高野英昭主査、高橋風宇太主事補

▽施策項目「野生鳥獣被害の防止」

事務事業名「有害鳥獣捕獲従事者確保事業」

町 : 内容説明

▽施策項目「農業」

公共施設名「育苗ハウス」

町 : 内容説明

委員 : 育苗施設のビニールの状況は。

町 : 2重構想になっており、特に内側のビニールが損傷している。育苗施設は、利用料として月額一棟330,000円いただいている。ビニールの損傷によって育苗に支障あれば、修繕していきたいと考えている。現在、資材代の高騰による影響もあり、農業者と話し合いながら進めていく。

事務事業名「新規就農者等支援事業」

町 : 内容説明

委員 : 一人農業の問い合わせ増加の理由は。

町 : タウンプロモーション推進部の情報発信による影響だと考えられる。

委員 : 一人農業をやっていくうえで、人手が必要な作業についてはどうフォローしていくのか。

町 : 農家やアルバイトの力を借りる。そのため、一人農業者には町内でのつながりを深めるよう伝えている。

公共施設名「農産物加工研究所」

町 : 内容説明

委員 : 現在の下川町加工研究所の売り上げは。

町 : 去年と同様に推移している。去年の売り上げは、過去最低だったため11月の商談会にて販売促進につなげていきたい。

委員 : ふるさとの元気はなぜ瓶で販売しているのか。

町 : 缶で生産していたこともあるが、缶特有のにおいがついてしまう。現在、施設としても機械設備が瓶以外生産できない仕様となっている。

委員 : 売上の最高額はいくらか。

町 : 平成24年に120,000,000円。当時、京都大学のマスコミによる情報周知による効果。

委員 : 全国でトマトジュースの需要はどうなっているか。

町 : 全体的に落ちてきている。そんな中、他産地ではトマトジュースに高価格化、ラベルや瓶をおしゃれにしているなど付加価値をつけている。下川町では、今年一部無塩での製造を実施した。無塩トマトジュース販売のため、ラベルについても無塩用として新たなデザインを作成予定である。

委員 : 下川町のトマトジュースの需要が高まった場合、生産量をあげ対応できるのか。

町 : 現状の施設では、350,000本まで対応可能である。しかし、トマト冷凍施設の不調や出荷農家の高齢化による全体量の減少が懸念される。

公共施設名「土壌改良施設」

- 町 : 内容説明。
- 委員 : 土壌改良施設は令和8年までもつのか。
- 町 : 最小限の経費をかけ延命していく。
- 委員 : 土壌改良施設の廃止後、利用していた農家に対して支援はないのか。
- 町 : 色々な形で支援していきたいと考えている。例えば、町外からの購入費用に対して以前と同様になるよう支援するなど。
- 委員 : 土壌改良施設での生ごみ処理状況は。
- 町 : 土別では、生ごみのたい肥化の後に振るい機にかけ、堆肥化できなかったゴミ等を分けている。しかし、多額の機械整備費用が必要となる。

▽施策項目「林業・林産業」

事業名「新木材活用可能性調査事業」

- 委員 : 乾燥機は、現在どこにあるのか。
- 町 : 森林組合の北町工場に保管している。
- 委員 : 一般の方に貸し出せるのか。
- 町 : 貸し出すには、立地が悪い。また、サイズも小さくニーズがあるのか。
- 委員 : 乾燥機には、どれくらい入るのか。
- 町 : 2から3立方程度である。